

執筆者紹介

佐治 圭二 Sai, Keizo

一九三〇年生まれ。京都外国語大学名誉教授。日本語学、日本語教育。『日本語の文化の研究』『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』『類似表現の使い分けと指導法』

李翠霞 Li, Cui Xia

一九四四年生まれ。愛知学泉大学経営学部教授。日本語言語学。『テレビの旅行日本語』『中日文化交流—留学生相互派遣の今と昔』『川端康成と『伊豆の踊り子』』

顧明耀 Gu, Mingyao

一九三八年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。対照言語学、応用言語学。『標準日語語法』（共編著）『系統的に学ぼう中国語』（共著）『新日漢大辞典』（共編）

劉柏林 Liu, Baimin

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。中日文化と中日言語の比較。『実用日本語二〇一句』『中国語の『麻煩』とそれに対応する日本語の表現について』『中国語と日本語の色彩語の連想と象徴について』『社会

の変遷と言語の変化—新語に見られる呼称語』

陳俊森 Chen, Junsen

一九五二年生まれ。華中科技大学外国語学院教授。日本語教育、異文化コミュニケーション。『人称代名詞在交際中使用数量的考察—『論日語文化大綱的設計』『日語教材評価方法論—以開放型評価為中心』

彭広陸 Peng, Guanglu

一九五七年生まれ。北京大学外国語学院日本語学教授。日本語学、中日対照言語学。『概説・古典日語語法』『概説・現代日語語法』『複合連体格の名詞を『かざり』にすゝ連語』

王健宜 Wang, Jianyi

一九五七年生まれ。南開大学外国語学院日本語学教授。日本語学。『扶桑詞話』『助動詞「れる・られる」に見られる日本人的思考のパターン』『日本語動詞用法辞典』（編著）

工藤節子 Kudo, Setsuko

一九五八年生まれ。東海大学（台湾）専任講師。日本語教育。『自律学習に向けた大学生のリソース利用と教師の役割』『台湾の企業関係者が見たコミュニケーション問題』『J

SPにおけるタスク中心のカリキュラム』

馮天瑜 Feng, Tianyu

一九四二年生まれ。武漢大学歴史系教授、中国文化研究院院長。中国文化論、中国古典文研究。『中華元典精神』『中華文化史』『人文論衡』『明清文化史散論』

荒川清秀 Arakawa, Kiyohide

一九四九年生まれ。愛知大学国際コミュニケーション学部教授。中国語学、日中比較語学。『近代日中學術用語の形成と伝播』『一歩すすんだ中国語文法』『東方中国語辞典』（共著）

中西千香 Nakanishi, Chika

一九七三年生まれ。愛知大学大学院中国研究科博士課程、愛知大学孔子学院講師、愛知県立大学非常勤講師、豊橋市立豊橋高校非常勤講師。『跟』の意味拡張について—結びつく動詞を通して—『中国語教育における生素材の活用について』『発語の対象を引き出す介詞（前置詞）について』

張美蘭 Zhang, Meilan

一九六三年生まれ。清華大学中文系教授。唐、宋、元、明、清時の中国語、近代中国語。『禅宗言語概論』『近代漢語言語研究』

『祖堂集語法研究』

山田 克利 Yamada Katsutoshi

一九四四年生まれ。愛知大学短期大学部・国際コミュニケーション学部非常勤講師。日本語、中国語教育。清朝末期新聞法の立法意

図(翻訳)「千歳丸」の上海行(翻訳)

王 沢鵬 Wang Zepeng

一九六八年生まれ。南開大学言語文化学院教授。語彙学、語義学、言語教学。

王 毅 Wang Yi

一九五三年生まれ。中国駐日本特命全權大使。

ガンバガナ Gang Bagan

一九七〇年生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程。内モンゴル近代史。「汪兆銘と内モンゴル自治運動」「綏遠事件と日本の対内モンゴル政策」「強いられたい旅—内モンゴルにおける生態移民政策の実体について」

遠山 日出也 Tohyama Hideya

一九六〇年生まれ。立命館大学非常勤講師。現代中国女性史。「第一次五カ年計画期の都市における保育政策」「現代中国女性史年表

(一九四九—二〇〇四)」「最近の中国女性の労働問題をめぐるさまざまな女性たちの動向」

三好章 Miyoshi Akira

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。日中戦争史、中華人民共和国教育史。「摩擦と合作 新四軍一九三七—一九四一」「中等教育の現状と課題—『素質教育』の展開」

訂正

Vol. 26 316頁上段5〜7行目魏璋氏著作名

×「九死一生—中国文明化の苦難と過程の中期予測」「中国文明与盧人的批判」「中国現代社会学」(主編)

○「諸国外対混合組織理論研究の新進展」「全球化進程中的中国经济增長」(共著)

以上、お詫びして訂正いたします。

中国 21 Vol. 28 予告(07年7月刊予定)

特集●東洋のキリスト教

東洋にとってキリスト教はどのような存在であったか。地域的には中国、朝鮮半島、ベトナム、ムスリム圏を対象とし、時代も前近代から現代まで、そして現象としては、宣教の歴史という護教的枠組みを意図的に超えて、社会との関わりのみで生じ、影響を与え、変容していったさまざまな様態を取り上げ、考察する。

馬場毅「東洋のキリスト教への視線」／岡本さえ「東洋のキリスト教のベクトル」／渡辺祐子「対外宣教から内部省察へ—パウルバックを例に」／牧野元紀「ベトナム史とキリスト教布教史」／塩山正純「キリスト教の受容—聖書中国訳の視点から」／Kran Cody「アジアにおけるキリスト教伝道組織」／石田卓生「東亜同文書院とキリスト教」／宮坂弥代生「中国近代印刷とキリスト教」／石川照子「近代中国におけるキリスト教と女性—鄧裕志の生涯を事例として」／倉田明子「一九世紀華南における社会変動と基督教—洪仁桂「資政新篇」の考察」／三好千春「朝鮮半島のキリスト教」／松本ますみ「中国ムスリムに対するキリスト教宣教」／田島英一「現代中国のキリスト教活動」ほか